

# パールハーバーにおける未来創造型平和学習の実践

Hawai'i Innovative Knowledge Institute

代表 鶴見 剛

## Progressive Peace Education Program at Pearl Harbor

Yoshi Tsurumi (Founder Hawai'i Innovative Knowledge Institute)

### 1. はじめに

アローハ！私たち Hawai'i Innovative Knowledge Institute はホノルルに本拠を置く国際教育機関です。日米の高等教育機関、民間・非営利法人、行政機関等に向けて、短期留学、フィールドスタディ、インターンシップ、社員研修など多彩なプログラムを提供しています。

昨年より始まった長崎大学多文化社会学部のインターンシッププログラムは、パールハーバーが正式に日本の大学から受け入れを認めた初のプログラムになります。何度もハワイに足を運び実現のためにご尽力くださった同大学白井章詞准教授に感謝いたします。インターンシップについては参加した学生より後ほど報告があると聞いていますので、ここでは我々 HIKI がパールハーバーで提供している平和学習プログラムについて簡単にご説明したいと思います。長崎大学の学生も、インターン中にこれらのプログラム運営を一部手伝ってもらっています。ご紹介するのは日本からパールハーバーを訪れる高校生グループの一日研修です。

我々のプログラムでは、パールハーバーを見学するだけでなく、自分がどう感じたかを共有することや、普段はなかなか触れることが難しい戦争と平和というテーマに対して自らの考えを表現し、希望する未来をデザインするという学びのプロセスを重視しています。

もちろん、楽しいお話ではありません。ただ、パールハーバーのスタッフと対話することで、また学生の皆さんが互いに自分の思いを語ることで視野を広げ、最後は希望を胸に笑顔になって帰っていく。それがパールハーバーで実践したい平和学習だと、教育プログラム担当の Frank さんは常におっしゃいます。そこで我々は「若者の、若者による、若者のための平和学習」を実践しています。

## 2. パールハーバーでの取り組み

それでは実際にパールハーバーで行われている Progressive Peace Education Program (通称 P-PEP) についてお話します。日本語で未来創造型平和学習と呼ばれる本プログラムは、パールハーバー・ナショナルメモリアル内にあるエデュケーションセンターを利用して行われます。対象は中学生から大学生で年齢は問いません。人数は10名から30名ほど。やはり30名を超えてしまうと、スペースの問題からディスカッション型のプログラムは運営が難しくなるので、例えば修学旅行などではグループ分けし複数回に分けて実施する場合もあります。

一日研修（7時間）と半日研修（3時間半）の2パターンあり、送り出す学校や団体のニーズに合わせてカスタマイズされます。原則パールハーバーエデュケーションプログラムの専門家が英語で進め、HIKI スタッフが通訳兼ファシリテーションを行います。日本の若者にできるだけ英語で考え、英語力も高めてほしいという狙いもあり適宜通訳によって理解を深める工夫をしています。

本日はご紹介する具体例は沖縄の高校生25名を対象とした一日研修プログラムです。われわれのプログラムはハワイ到着前に必ず日本で事前研修を行います。このケースでは事前研修で沖縄県平和祈念資料館を訪問してもらいます。沖縄で生まれ育った高校生であれば、過去6月の慰霊の日に合わせて複数回訪問している生徒も多いのですが、今回はハワイに来る事前研修として再度訪問してもらい、以下3つのディスカッションポイントを紙のチャートにまとめ発表するよう指示します。1. なにを目的に展示がされるのか。2. 目的を達成するためにどのような工夫がされているのか。3. 資料館が示す平和の定義とは何か。グループでこれらを話し合い、まとめたチャートを持ってパールハーバーに向かいます。

ハワイ到着後、パールハーバーを訪れると、スタッフが笑顔でウェルカムしてくれます。7時間におよぶ一日研修は4つのステップで進みます。まずステップ1としてパールハーバーの目的と平和の定義を考えます。沖縄県平和祈念資料館の事前学習でまとめた作業とまったく同じことを、パールハーバーでも行ってもらいます。パールハーバーにある展示物の目的は何か。どのような工夫がされているか。パールハーバーが示す平和の定義とは。そして最後に、沖縄で調べてきた内容と、パールハーバーを調査し気付いた内容とを比較研究します。

多くの沖縄の高校生は、沖縄の地上戦を中心に平和学習を受けているので、パールハー

バーの展示内容、ムービー、メッセージに衝撃を受けます。ものの見方、捉え方、そして平和の定義が大きく異なるのです。そこに一つ目の発見があります。世界共通だと思っていた平和という言葉、定義にもそれぞれ見方があり、それぞれの歴史的背景から、多様な平和観が存在することを多くの高校生は初めて気付かされます。

ただ平和を願っているだけでは平和は訪れない。ではどうしていくべきか？パールハーバーのスタッフが高校生に問いかけます。「戦争が終わって70余年。この地球上には何十というモニュメント、祈念館、平和をつかさどる記念碑が建っています。それはたくさんの資金や税金を使って守られ、そして毎年世界中から何千万人という人々がこれらを訪問しているはずですが、しかし、一つの事実として、この地球上はまだ平和になっていません。なぜですか？こんなにたくさんの平和祈念館があり、多くの人々が訪問しているのに、なぜ私たち全員が平和を実感できる社会になっていないのでしょうか？なにが足りないから、平和は達成できていない。それは何だと思いませんか？沖縄の平和祈念資料館にはなにが足りないのでしょうか？パールハーバーにはなにが足りないのでしょうか？どうすればより良い施設になるのでしょうか？」ここで「良い施設」という表現を使うことはとても重要です。各チームが平和をどう定義するかによって、良い施設の目的とあるべき姿が変わってきますので、あくまで良い施設という言い方で、なにが足りないのかを考えてもらいます。そして各チームよりパールハーバースタッフへ提案をし、ステップ2を終了します。

ステップ3では想像力と創造力を駆使して未来を創造するデザインワークショップに入ります。ここでは次の問いを高校生たちに投げかけます。「世界を平和にできる施設をつくってください。予算は無制限、一切の制約はありません。ただし、施設がオープンしてから5年後には、必ず世界が平和になっていることが条件です。」この問いに対して2時間オープンに考え、これまで存在していなかった、全く新しい平和をつかさどる施設をデザインし提案してもらいます。毎回高校生たちは目を輝かせて楽しそうに、かつ真剣に話し合いデザインしてくれます。中には大型の模造紙を4枚、5枚と使って壮大な企画をつくるチームもありますし、1枚にコンパクトにまとめるチームもあります。大人の想像をはるかに超えた驚くような提案ばかりで研修が最も盛り上がる時間です。

最後のステップ4はリフレクション・ディスカッションです。パールハーバースタッフの問いかけに答えるかたちで、ステップ1～3を通して自身のものの見方や考え方がどう変化したかを振り返り、沖縄に帰ってからどんな一歩を踏み出したいと考えているのか全

員で1時間しっかり共有します。気付きと学び、思考プロセスの変化を言語化することで、平和学習を自らの言葉で語るができるようになり、平和を創り上げていく「ワクワク感」を共有してもらいます。平和は未来のことであり、未来なら明るくあるべきだと感じてもらえるようファシリテートすることが重要です。

### 3. さいごに

現在、長崎とハワイをつなげるバーチャル未来創造型平和学習（P-PEP）を展開しようと計画しています。オンラインでパールハーバーと長崎のクラスをつなぐことによって、どこの中学校や高校でも、そして原爆資料館のセミナールームでも、そこにいる皆さんとハワイのスタッフがつながり、パールハーバーを訪問することができるようになります。そこでも参加型のディスカッションやワークショップも実施し、長崎とハワイの若者が繋がり未来の平和を積極的に考えることのできるプログラムを、多文化社会学部の学生さんを中心に現在企画検討中です。

私たちはこれまでの平和学習を否定しているわけではありません。過去起こってしまった戦争という過ちを二度と繰り返さぬよう、史実を学び、戦争の悲惨さを実感したうえで、未来に向けて一歩踏み出す若者たちを後押しするプログラムがP-PEPです。そして未来の平和を考えることは楽しいことであり、ポジティブに話し合うことで平和を創り出していけるという「ワクワク感の醸成」こそが重要だと私たちは考えています。

長崎の研究者の皆さま、教師の皆さま、そして学生、生徒の皆さん、ハワイという場所、パールハーバーという施設はとてもオープンで皆さんに近い存在です。これからの未来、創造性に富んだ平和学習のあり方を若者たちと共に考えていくこの新しいプロジェクトに、ぜひ参画していただきたいと思っています。